

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **中性子医療研究センター**

部局長名： **那須 保友**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
目標に関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・専任及び兼務教員が関係する大学院コース(医歯薬学総合研究科並びに保健学研究科)の教育を担う。 ・大学院医歯薬学総合研究科に設置している分子イメージングコースの取得単位(講義)で、BNCTに関する教育枠を増やし、当該領域に専門性の高い研究者を輩出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院コース(医歯薬学総合研究科並びに保健学研究科)並びに分子イメージングコースでNTRC教員は授業などの担当を実施済で責任を果たしている。授業コースは初年度であり専門性の高い研究者輩出はこれからである。
②研究領域	
目標に関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・内外研究者と連携しBNCT研究のハブとしてシーズ探索を行う。 ・コロナ感染症拡大防止のため非滞在型クロスアポイント(NVCA)を先行施行する。国内研究者との共同研究を進め、有用な新規シーズ発掘を行う。 ・新規ホウ素薬剤OKD-001の臨床に向けた開発を遅滞なく進める。 ・PMDAとのRS戦略相談を進める。毒性・安全性試験実施に向けて薬物動態試験を行う。安定した点滴注射剤のためのCMC研究を進める。 ・分子イメージング部門は協働して、OKD-001の生体内分布やin vivo 有効性の評価系の検討を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「橋渡し研究」事業でのシーズ探索を実施した。 ・イタリア パヴィア大学とNVCAの契約を締結し、サベリオ准教授との共同研究を進めた。新規ホウ素薬剤OKD-001の同大原子炉を用いた試験を実施、報告書を入手した。 ・名古屋大学と連携して、血液がん分野でのOKD-001による臨床でのEx.vivo BNCT実施に向け、血液がん分野の臨床専門家を交えた体制を構築した。 ・学内教員と協力して「革新的がん治療創生研究」事業に応募したが不採択となった。これまで進めてきた「悪性脳腫瘍」での臨床試験のための、毒性・安全性試験実施に必要な資金の目処が立たず今年は足踏みとなった。 ・分子イメージング部門は、採択されたAMED事業のテーマで検討を進めた。
③社会貢献(診療を含む)領域	
目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・市民のBNCTに対する理解のため市民講演会を開催し、教育的な情報提供機会を設ける。 ・NTRC発足5周年の業績集を編纂し、関係先に配布等を行う。更に、昨年度はコロナ感染症拡大のためやむなく中止したシンポジウムを開催する(第4回)。鏡野町での市民公開講座の開催を検討する。 ・IAEAにBNCTの新たな国際基準策定を働きかける。 ・昨年度双方で合意した方針に沿って、IAEAの進める「新BNCTガイドライン策定プロセス」に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民講演会については新型コロナウイルス感染症の影響を受け未実施であった。 ・NTRC成果報告集を編纂し、100部を関係先に配布した。また、第5回NTRCシンポジウムをオンラインで開催(12/10)、150名を越える登録を得て盛会に実施した。鏡野町での公開講座開催については検討したが、実施主体が選定できず未実施であった。 ・コロナ下ではあったがIAEAに研究者を派遣してオーストリア現地での働きかけを進めた。これにより新規ガイドライン策定プロセスがほぼ確定される運びとなった。
④管理運営領域	
目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・岡山の全学センターとして国際共同研究を推進する。 ・イタリア パヴィア大学との間で、同大の原子炉を活用したがん細胞へのBNCT研究(in vitro細胞実験)を共同研究として進める。 ・BNCT研究で外国人教員及び外国人留学生を受け入れ、COVID-19感染拡大状況下での大学における教育・研究面での先導的モデルを構築する。加えて、大学院医歯薬学総合研究科等と連携して、海外からの留学生を受入、人材育成に努める。更に保健学科での大学院コース実施に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山の全学センターとして国際共同研究を推進する目的で、イタリアパヴィア大学との間で原子炉を活用したがん細胞へのBNCT研究(in vitro細胞実験)を実施した。 ・COVID-19感染拡大状況下での大学における教育・研究面での先導的モデルを構築し、大学院医歯薬学総合研究科等と連携して、海外からの留学生を受入準備を整えたが、文科省指示により私費留学生の入学が途絶され実現出来なかった。保健学研究科での大学院コースは開設が実現した。
⑤センター・機構等業務	
目標に関連する 年度計画の番号	センター・機構等業務における目標の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な連携先との打ち合わせを欠かさず、研究活動を活性化させ生産性を上げる。 ・WEB会議を頻回開催し、コミュニケーションの疎通を図る。特に、名古屋大学、岐阜大学、京都大学などは、出向いての実験実施や研究打ち合わせ出張等でも対応する。 ・運営委員会を適宜開催し、評価委員会(外部評価委員出席)を開催して、外部視点からの評価を踏まえた組織運営に努める。アドミオフィスの実効性を向上させ、研究者の研究時間を確保すると同時に、外部資金獲得へ向けた支援を更に向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB会議を頻回開催した。中でも名古屋大学、岐阜大学、京都大学などとは、緊急事態宣言下等の状況でない場合は、直接出向いての実験実施や研究打ち合わせ出張で対応した。 ・運営委員会を適宜開催した(年2回)。評価委員会(外部評価委員出席)を3月オンラインで開催して、外部視点からの評価を踏まえた組織運営に努めた。アドミオフィスの実効性を向上させ、専門性の向上したスタッフは機能強化費満了を控え、他所への異動を実現した。